

当サービスでは、JIS Z0200「評価試験方法通則」に従い、輸送試験計画の立案、輸送試験の実施、試験実施後の試験報告書の作成、更にご要望に応じ、万一の試験不合格時の包装仕様見直しまでを支援するサービスです。

### 【CASE 2における試験シーケンス (包装質量が30kg未満の場合)】

番号	試験項目	試験条件	引用規格
1	前処置	23℃/50%RH	JIS Z 0203
2	落下試験	4角4稜3面 (落下高さは、試験レベルによって異なる)	JIS Z 0202
3	圧縮試験	試験荷重を負荷し、その後開放する (試験荷重は、試験レベルによって異なる)	JIS Z 0212
4	振動試験	ランダム振動試験 または、 正弦波掃引振動試験 (加振時間は、試験レベルによって異なる)	JIS Z 0232
5	繰り返し 衝撃試験	ランダム振動試験 (加振時間は、試験レベルによって異なる)	JIS Z 0232
6	圧縮試験	最大荷重を24時間掛け 続ける	JIS Z 0212
7	落下試験	4角4稜3面 (落下高さは、試験レベルによって異なる)	JIS Z 0202

### 【JIS Z0200輸送試験の特長】

■ ISO4180を基本とし、包装貨物が流通過程で発生する振動・落下衝撃・圧縮に対し包装仕様が適正か否かを評価する為の試験方法が規定。(2013年3月改正)

■ 本体と附属書で構成。本体はISO4180を基本とし日本独自の事情を反映させ技術的内容を変更して作成。附属書A及びBは技術的内容を変更することなく記載。

■ 基本の試験シーケンスは前処置、落下、振動、圧縮試験の4試験。流通過程におけるハザードが既知の場合、“CASE 1”、そうでない場合は“CASE 2”を採用し、試験レベルを加味し試験計画を立てるのが望ましい。

■ 落下試験では、包装貨物重量に応じた落下高さで、1角3稜6面(計10回)の落下を実施。

■ 振動試験では、ランダムと正弦波掃引の両方が規定。試験装置が利用できる場合、ランダムを優先して適用するのが望ましい。

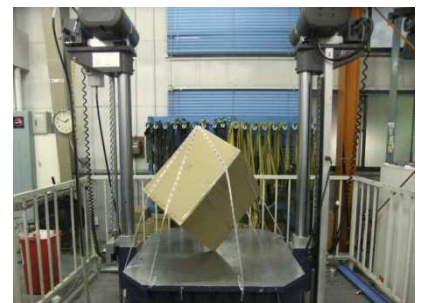
### 【JBLの強み】

(1) ISTA認定試験設備により信頼性の高い試験を実現します。

(2) 社内にはISTA CPLPテクノロジスト、テクニシャンが在籍しており、ISTAとのアライアンスにより最新の専門情報を収集し試験に役立てる事が出来ます。

(3) JBLが保有する試験機は大型貨物に対応しています。試験室内には大型の走行クレーンが完備され、パレタイズされた大型重量貨物も安全かつ迅速に試験出来ます。

(4) 各種包装試験設備をバランスよく取り揃え、海外規格のシーケンシャル試験にも1拠点でほぼ全ての試験が実施できます。



落下衝撃試験機(方法B)の様子